

CAMD セミナー

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

動物個体を用いた新規創薬基盤

北海道大学 遺伝子病制御研究所 がん制御学分野

園下 将大 先生

平成31年4月19日(金) 16時～17時
第1研究棟 2階小会議室

薬物は、疾患の予防や治療のための有力な手段となり得る。しかし、抗がん剤をはじめとする多くの薬物やその候補化合物は、期待された効果を発揮しない、また患者に重大な副作用をもたらしてしまう等の問題を抱えており、真に有用な論理的創薬手法の確立が望まれていた。

そこで我々は、ショウジョウバエ遺伝学、計算機科学、創薬化学を融合し、新規抗がん剤創薬基盤の開発に取り組んだ。本研究では特に、種々のがんで重要な役割を果たすキナーゼとその阻害薬、動物個体での解析に着目し、創薬の足がかりとした。

本講演では、ハエがんモデルを使用することで可能となったキナーゼ阻害薬の効果に影響を及ぼすキナーゼの同定と、それに立脚した薬の化学構造の最適化による薬効の増強について紹介する。

安価で迅速な本基盤は、様々ながん種はもちろんのこと、神経疾患など他の難治性疾患の治療薬開発にも応用できる可能性も秘めており、本講演では今後の展望についても議論したい。

連絡先：創薬モデル動物開発室
津田 玲生（内線 7523）